

南無阿弥陀仏は  
私のいのち



平成 27 年  
9 月号

NO.  
452

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>  
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(京都・法然院)

## 遊 び

先日お盆参りで、ある御門徒さんのお宅に伺った際、「最近の世の中は遊びがない」という話になった。色々なことが便利になったが、何かにつけ規制や制限が厳しくなり、遊ぶといっても思いつきり遊べない、生き方が楽しめない世の中になった、ということであった。

遊びという言葉の意味は幅広くあるが、意味の一つに非日常的な行為を楽しむということがある。私も友人と飲みに行くなどして自由な時間、余暇を楽しむことがある。しかし、遊んでいながらも、「あれをしなければ、これをしなければ」と、日常のことが気にかかり、遊びきれないことが多い。そう考えると、どこか窮屈な生き方をしているように思う。では一体どういことが遊びなのだろうか。

親鸞聖人が書かれた「正信偈」に、「遊煩惱林現神通（煩惱の林に遊びて神通を現す）」という一句がある。煩惱とは自分の知識、経験からくる思いに固執する、我執から起こる迷いである。その煩惱が林のように多い迷いの世界を、何ものにもとらわれず遊ぶように悠々と生きていけることを、遊ぶというのであろう。自分の思いに固執するところから解放させる功德が、浄土のはたらきなのだと教わった。

実は遊びだけでなく、日常すらも自分の思いで縛っているから遊びがないと感じるのだ。どうしても狭い自分の思いに縛られている私たちに、もっと広く自由自在な世界が開かれているのだと喚びかけられているのである。

(仲井 真裕 記)

## 秋季永代経法要のご案内

猛暑続きの8月、庭木の葉っぱも縮れるほど乾ききった境内に、恵の慈雨を受け、生き返った木々の緑深まる中、秋のお彼岸をお迎えいたします。

今年は戦後70年、毎日のように「おわび、反省、侵略」の言葉がマスコミで取り沙汰されてきましたが、終戦日の8月15日の朝日新聞の『折々のことば』の欄に「未整理の過去と手さぐりの未来との間に点描でしか描けない現代がある」と、ウクレレに関わりの深い美術家・伊達伸明氏の言葉が紹介されていました。その「点」を「今」と置き換えてみると、8月号カレンダーに「今を生きずにいつを生きる／ここを生きずにどこをいきる」という問いかけにも通じます。

ある念仏者は「今をいただけたら、今死んでもよい。今をいただけたら、いつまで生きてもよい」との言葉も思い起こします。

間もなくお彼岸、手探りの未来に向かって此の岸辺から踏み出す我が身の第一歩、はじめから手探りでは不安に違いありません。未整理の過去とは、数々の他のいのちを食いつぶし犠牲にしなければ成り立たない、自覚のなさを言うておられるのでしょうか。

親鸞聖人にお尋ねすると、今の我が身は「地獄一定」と立つ場所を明快にお示しになっておられます。なぜ地獄性の我が身なのか？

万障お繰り合わせをいただきご聴聞賜りたくお待ち申し上げます。

日時 平成27年9月22日(火)  
午後1時30分より

場所 西徳寺本堂

法話 大谷住職代務 木村主任



# 親鸞さんのことば

善人なおもて往生をとぐ、  
いわんや悪人をや。  
しかるを世のひとつねにいわく、  
悪人なお往生す、いかにいわんや善人をや。  
この条、一旦そのいわれあるに、  
にたれども、本願他力の意趣にそむけり。

【歎異抄】  
松井憲一

親鸞聖人は、「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや(善人さえも阿弥陀仏の浄土へ生まれることができるのなら、まして、悪人はいうまでもありません)」といわれます。これは、悪人でさえ浄土へ生まれるのなら、善人が生まれるのは当然だと思ふ私たちの常識に反しています。ところが聖人は、このもつともにも思える常識は、すべての人々を救おうと立ち上がった阿弥陀仏の本願に、背くことだと気づかれました。「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」とは、聖人が阿弥陀仏の本願に出遇われて、善人意識がひるがえされた懺悔と謝念の言葉であったのです。

掃除の熱心なAさんは、いつも教室の掃除が終わるころに来るBさんを心のなかでなじっていました。ある日、Aさんは成績の悪いBさんから成績のことでなじられました。それで、Aさんは、ついに「成績は自分のことだから人には迷惑をかけません。しかし、掃除は人に迷惑をかける」といったら、すぐ「成績の悪い人がいるから私たちの授業が進まないの」と言い返されたといっています。それに、自分が善いと思う心は、いつのまにか他人を傷つけていきます。

私たちは、いつも善はしようと思えばできる、悪は止めようとすれば止められると思っています。そして、善いことをすれば、期待した結果がくると思っていますから、「客帰るトイレの花を 見ないまま」という、はりあいのないこともおこります。善悪といつても、自分の好き嫌いや、損得勘定を入れていきますから、いつでも、どこでも、だれにでも通じるような善や悪があるのだろうか、考え直してみると、容易に見つけることができません。

その上、私にとって善いことは、他人にとって都合の悪いこともありま

す。それなのに、「おのれ善ければ、すべて善し」という心で、善悪を決着すれば、他人を切り刻むだけでなく、自分をますます孤立化させていきます。この善悪を判断できるという知識と教養が、「面倒くさいことはごめん」と、人間関係を希薄にし、人との出遇を見落としていきます。だから、すべての人と平等に出遇わそうとする阿弥陀仏の本願には、善人や悪人の選びはないのです。それで、聖人は「善にこだわって善人になれると思っている人は、かえって阿弥陀仏の本願に出遇えない」といわれます。

なぜなら、善人は自分の努力をたのみにして、浄土に生まれようとするから、ひとすじに他力をたのむ心が欠落して、阿弥陀仏の本願に遠のいていくからです。しかし、その善人も、「自分の力にとらわれていたと懺悔し、心をひるがえして本願他力にまかせる身になるなら、浄土に生まれることができる」といわれます。

わたしたちは善し悪しで閉塞しているのに、善悪を分けて見ることができると思いこんでいるし、と執着心の闇を、破ることができません。阿弥陀仏は、このどうしてみようと

ない黒闇のわたしたちを一人残さず救おうと本願をおこされたのですから、本願に呼び覚まされて悪人と額かざるを得ない人をこそ救うのです。それで、聖人は「阿弥陀仏の他力をたのむ悪人の自覚こそが、まさに阿弥陀仏の浄土へ生まれると決定した人なのです」といわれ、「善人が浄土へ生まれるのなら、悪人は当然生まれることができる」とは、法然上人からもお聞きした言葉ですといわれました。

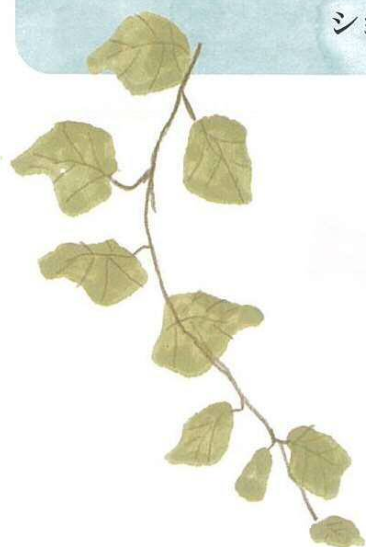


(陶あかり)

# 山門の言葉

## 誰もが自分自身の視野の限界を 世界の限界だと思い込んでいる

ショーペンハウエル（ドイツ 哲学者）

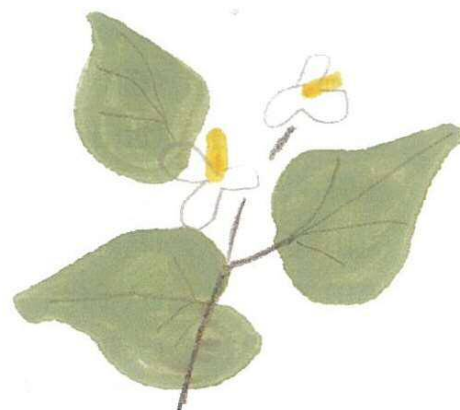


「戦後七十年」。節目の年、体験者の減少、そして安倍内閣ということもあり例年以上に注目された。夏、改めて世界平和が祈られた。ところで連合国側は「戦勝〇〇年」と表現することはご存知だろうか。これには正直驚いた。「戦後」や「終戦」は聞き慣れていたが、改めて諸外国からは「敗戦国」という眼差しが日本に注がれているのだと思わされた。そこに私は認識のズレのような感覚を抱いた。

「戦後七十年」。節目の年、体験者の減少、そして安倍内閣ということもあり例年以上に注目された。夏、改めて世界平和が祈られた。ところで連合国側は「戦勝〇〇年」と表現することはご存知だろうか。これには正直驚いた。「戦後」や「終戦」は聞き慣れていたが、改めて諸外国からは「敗戦国」という眼差しが日本に注がれているのだと思わされた。そこに私は認識のズレのような感覚を抱いた。

「戦後七十年」。節目の年、体験者の減少、そして安倍内閣ということもあり例年以上に注目された。夏、改めて世界平和が祈られた。ところで連合国側は「戦勝〇〇年」と表現することはご存知だろうか。これには正直驚いた。「戦後」や「終戦」は聞き慣れていたが、改めて諸外国からは「敗戦国」という眼差しが日本に注がれているのだと思わされた。そこに私は認識のズレのような感覚を抱いた。

「戦後七十年」。節目の年、体験者の減少、そして安倍内閣ということもあり例年以上に注目された。夏、改めて世界平和が祈られた。ところで連合国側は「戦勝〇〇年」と表現することはご存知だろうか。これには正直驚いた。「戦後」や「終戦」は聞き慣れていたが、改めて諸外国からは「敗戦国」という眼差しが日本に注がれているのだと思わされた。そこに私は認識のズレのような感覚を抱いた。

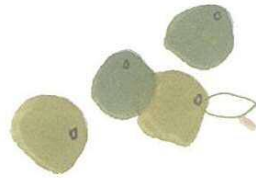


「戦後七十年」。節目の年、体験者の減少、そして安倍内閣ということもあり例年以上に注目された。夏、改めて世界平和が祈られた。ところで連合国側は「戦勝〇〇年」と表現することはご存知だろうか。これには正直驚いた。「戦後」や「終戦」は聞き慣れていたが、改めて諸外国からは「敗戦国」という眼差しが日本に注がれているのだと思わされた。そこに私は認識のズレのような感覚を抱いた。

（山崎 哲記）

# 日誌

- 7月22日 婦人会聞法会  
7月26日 中央ブロック会聞法会（西徳寺・参加者34名）  
7月27日・28日 宗祖忌  
7月28日 仏教青年会主催 玉川奈々福浪曲会（西徳寺・参加者150名）  
8月1日 社交ダンス練習会  
混声合唱団「エコー」練習  
8月7日・8日 中興忌  
8月8日 社交ダンス練習会  
混声合唱団「エコー」練習  
8月13日～16日 盂蘭盆会



## えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

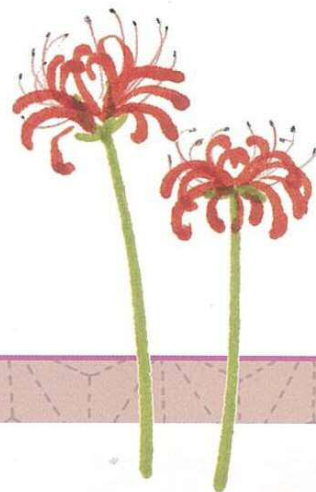
- 滋賀県 浄満寺 様  
練馬区 山本 雅彦 様  
千葉市 川島 弘 様  
江戸川区 宇田川 輝子 様  
柏市 山本 英男 様  
鎌ヶ谷市 鈴木 秀夫 様  
大田区 田村 恵 様  
台東区 飯高 多嘉子 様



# 掲示板

平成27年 9月

- |               |                        |   |
|---------------|------------------------|---|
| 5日(土)         | 午後3時半<br>午後6時          | 混声合唱団「エコー」練習<br>同行会「現代の聖典」に聞く<br>法話 蓮井 邦宗 |
| 7日(月)         | 午後2時                   | 東京教区研修会(新横浜グレイスホテル)                       |
| 8日(火)         | 午後7時                   | 仏教青年会『歎異抄』に聞く<br>講師 宗 正元師                 |
| 9日(水)         | 午後4時                   | 総代会                                       |
| 12日(土)        | 午後1時<br>午後1時半<br>午後3時半 | 社交ダンス練習会<br>定例間法会<br>混声合唱団「エコー」練習         |
| 15日(火)        | 午後1時半                  | 『唯信鈔』に聞く<br>講師 宗 正元師                      |
| 16日(水)        | 午後1時                   | 婦人会間法会                                    |
| 20日(日)～26日(土) |                        | 秋季彼岸会                                     |
| 22日(火)        | 午後1時半                  | 秋季永代経法要                                   |



## 編集後記

彼岸花は別名マンジュシャゲ・ハミズハナミズ(葉見ず花見ず)とも呼ばれ、秋彼岸の頃に赤い花を咲かせる、日本の風物詩になっています。

マンジュシャゲは梵語で「天上に咲く花」のことを言い、仏の花として寺や墓地に植えられました。ハミズハナミズという名前にもなっているように、花が咲いているときにはまだ葉が出ず、葉が伸びる頃には花が枯れているという、葉と花は決して一緒には見られないという面白い一面を持った花でもあります。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

**HP** <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。  
(メールでも結構です)

✉ [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)